

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

がん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実効性解析、  
活性化支援人材介入モデルの検討

研究分担者 片淵 秀隆  
熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座 教授

**研究要旨**

がん患者とその家族が求める情報提供と相談支援のニーズは多様であり、がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」での対応だけでは不十分であることが報告されている。地域完結型情報提供・相談支援システムの確立を目指し、地域の情報提供・相談支援体制を検証し、これを補強し得る人材養成を促進し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、必要な人材の育成とその介入モデル、療養を含めた地域情報づくりモデルを提案することを目的とし、3年間にわたり、＜地域完結型情報提供・相談支援体制＞の在り方研究と、＜支援体制活性化人材「がん医療ネットワークナビゲーター（以下、「がんナビ」と略す）」＞の確立研究を並行して実施した。分担研究として、熊本県をモデルケースとして の実装を目指した。 に関しては、平成29年度に、1都5県を対象とした「がん患者さんご家族向け支援の実態調査」のアンケート調査を、平成30年度には、同アンケート回答施設に対するインタビュー調査を「がんナビ」と併せて熊本県でも実施した。並行して平成30年度～令和元年度に、熊本県4カ所の二次医療圏で、地域の中核病院と薬剤師会の合同の研究会を開催し、「がん相談支援センター」と「がんナビ」の活動を紹介し、両者に対する認知度等のアンケート調査を行った。

に関しては、「がんナビ」の育成、広報・普及活動、介入、現状把握、顔の見える関係の構築、継続した支援の枠組みの構築を行った。13名のシニアナビゲーター、9名のナビゲーターを育成し、「熊本県がん医療ネットワークナビゲーター会議」と同メーリングリストを構築し、「熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会」と「がん診療連携拠点病院のがん専門相談員ワーキンググループ」と顔の見える関係を構築した。この実践を基に、「全国で参加可能なモデル（熊本モデル）」、「都道府県・市町村向けのモデル」、「医療者・介護者向けのモデル」、「人材育成のモデル」を提案する。

## A . 研究目的

- 1) それぞれの地域とフェーズで異なる「がん診療」に対する多様なニーズに対応し、その地域に存在するリソースへ適切につなぐ「地域完結型情報提供・相談支援体制」の確立を目指し、生活・療養を含めた地域情報づくりのモデル等を提案する。
- 2) 「地域完結型情報提供・相談支援体制」を支える「支援体制活性化人材」を養成するプログラムを検証し、育成と介入、支援の提供体制の在り方、育成した人材への継続した支援の枠組みを提案する。

## B . 研究方法

- 1) 熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会と「がんナビ」との連携を構築し協働で活動を行う。平成 29 年度に、「がん患者さんとご家族向け支援の実態調査」のアンケート調査と、平成 30 年度には、同アンケート回答施設に対するインタビュー調査を行う。二次医療圏の薬剤師を対象に地域の中核病院と薬剤師会合同の研究会を開催し、「がんナビ」により情報提供を行い、地域と職種に特徴的な「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。
- 2) 「がんナビ」に対してアンケート調査により現状把握を行う。九州地区において、メーリングリストを構築する。「がんナビ」を育成している日本癌治療学会学術講演会に参加を促し、継続的

支援と顔の見える関係の構築を行う。

(倫理面への配慮)

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

## C . 研究結果

- 1) 熊本県で活動する「がんナビ」の情報共有、連携の場として「熊本県がん医療ネットワークナビゲーター会議(以下、ナビ会議)」を設置した。参加者は、「熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会」の委員、がん診療連携拠点病院のがん専門相談員ワーキンググループ、熊本県がん相談員サポートセンターの職員から構成されている。成果としては参加者のメーリングリストを作成した。「熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会」にナビ会議の代表者が参加し、「がんナビ」の活動を定期的に報告し、幹事会の構成委員への周知を行い活動の理解を深めた。同部会下部組織「がん専門相談員ワーキンググループ」にナビ会議の構成員が陪席として参加することで連携を深めた。同部会が主催した県民公開講座で一般参加者向けに「がんナビ」を紹介した。がん専門相談員と「がんナビ」が協働して、天草市で開催された市主催の天草健康フェスタや、熊本市図書館で「出張がん相談」を行った。熊本県の複数の二次医療圏(人吉、芦北、熊本・上益城、阿蘇)の薬剤師を

対象に地域の中核病院と薬剤師会が協働して、がん専門相談員による「がん相談支援センター(室)」の説明を、「がんナビ」による「がんナビ」制度の説明を行い、アンケート調査にて「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を収集した。

- 2) 2019年8月現在、日本癌治療学会は344名のナビ、67名のシニアナビを認定した。活動状況を把握するために平成29年～平成31年(令和元年)で継続してアンケート調査を行った。シニアナビの活動が根付いてきたが、時間・活動場所・支援ニーズの3点が得られていない「がんナビ」の存在も明らかとなった。今後も、「がんナビ」の位置づけの明確化、「がんナビ」制度の周知・広報、「がんナビ」間のネットワーク構築、学会の継続的サポートが必要と考えられた(論文投稿準備中)。

「がんナビ」の周知・育成の活動として、

令和元年10月24日～26日に福岡市で開催された第57回日本癌治療学会学術講演会において「がんナビ」の参加を認め、継続的な教育の場を提供した。

同学会にて、九州地区の「がんナビ」を中心に、顔の見える関係を作るための会合を開催し、メーリングリストを作成した。令和2年度より「がんナビ」のコミュニケーションスキルセミナーを九州地区独自に開催することとした。

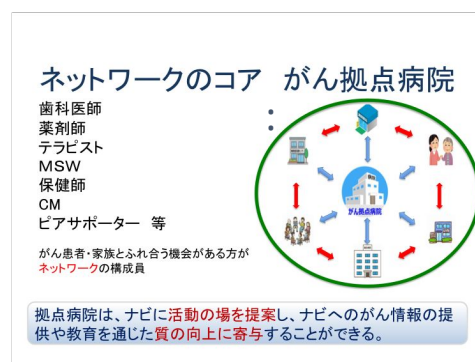
#### D. 考察

境らの報告によると(境 健爾、片淵 秀隆,ほか。熊本県におけるがん診療連携活動の現状と課題 癌と化学療法 46:

1151-1157,2019)熊本県ではがん診療のフェーズによって、がん診療連携拠点病院への集中と、地元へのUターンが行われていることが明らかとなった。また、本研究事業において行った渡邊らの報告により、がん診療のフェーズや生活・療養が行われている場によって、求められる情報、支援の内容が異なることが明らかになった。

[熊本県モデルの概要と特徴]

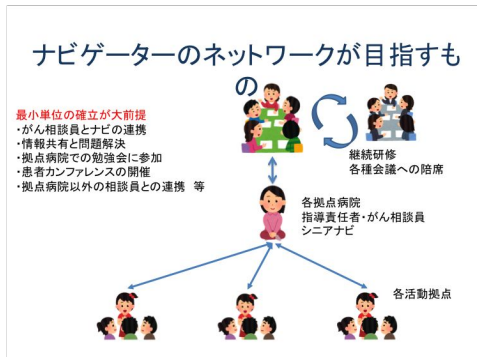
「がんナビ」を育成し、活動の場を提供し、「がんナビ」へのがん情報の提供や教育を通じた質の向上を図るための最小単位として、1つのがん診療連携拠点病院(拠点病院)を中心とした地域ネットワークの構築を目指す。



熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会をハブとし、行政、医療、ナビの三位一体の連携を構築した。熊本では相談員サポートセンターがコーディネートをを行っているが、地域統括相談支援センターの今後の活用が期待される。

ナビ育成の重点対象を保険調剤薬局の薬剤師としているが、今後対象をセラピスト・歯科医や歯科衛生士・図書館司書・介護福祉関係者(地域包括支援センターの保健婦やケアマネージャー

など)へも拡大し、ネットワーク最小単位の充実を図る。



～ と並行して、各地域がん診療拠点病院でのネットワークの構築を推進し、都道府県拠点病院を中心とした県下全域のネットワークへ拡大していく。

[ 全国で参加可能なモデル(熊本モデル) ]

現在までに熊本で行われてきた活動内容をまとめ、以下の機会を捉えて全国へ向けて発信する。具体的には以下の項目が考えられる。都道府県がん情報冊子、都道府県薬剤師会、保険薬局薬剤師会、介護事業所、市区町村保健、福祉課、全国の地域相談支援フォーラム、地区(例:九州・沖縄ブロック)地域相談支援フォーラム等での情報提供である。

[ 都道府県・市区町村向けのモデル(医療者・介護者向けのモデル) ]

都道府県は国の医療政策を受け、それぞれの地域の実情に応じて実施することを主に担当しており、市区町村は健診事業・介護施策を主に担当している。このことから、それぞれの特性に応じた展開を考える必要がある。特に、都道府県は二次医療圏の中核病院を通じて施策を実地することが多い。  
 < 二次医療圏の中核病院と地域の保険調剤薬局を車輪の輻として >

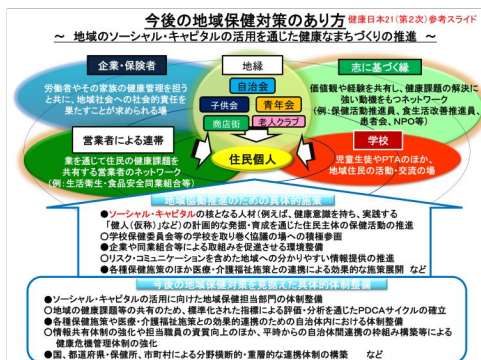
今後の我が国は未曾有の少子高齢化、人

口減少社会を迎える。一人の働き盛りの世代が肩車で一人の高齢者世代を支える構図には無理がある。健康な高齢者がハンディを持つ高齢者を支えることが予測される。さらに、東京都を除けばほとんどの道府県は人口が減少し、かつ生活環境が整っている中核都市へ移動していく。移動できない人は人口が減少して行く地域に取り残される。これらの地域の高齢者の健康を支えるリソースは、アクセスの良い地域の中核病院と地域の歯科と保険調剤薬局とコンビニエンスストアとなる。平成 30 年の全国の保険調剤薬局は 58,000 店舗、1 薬局あたりの人口は 2,189 名(1,621 名~2,597 名)である。地、域・店舗状況によるが、単純計算で約 50 名のがんに関連した問題を抱えた住民と接することが予想される。従って、がんの罹患者の 70%を高齢者が占める現状では地域の、がん患者・家族へ適切な医療情報を提供し、中核病院へ繋ぐ役目が地域の保険調剤薬局に期待される。地域の中核病院(相談員を含む)、保険調剤薬局、「がんナビ」(薬剤師を含む)の顔の見える関係づくり活動を推進することが具体的な方略となる。これが地域単位のネットワーク構築そのものとなる。

< 二次医療圏の行政と地域の健康啓発活動 健康日本 21 (第二次) >

平成 25 年からの健康日本 21 (第 2 次) の中間報告では、がん関連の項目は「B 目標値に達してはいないが改善傾向」であった。健康日本 21 (第 2 次) で提案されている「ソーシャルキャピタル」の核となる人材の候補としての「がんナビ」の可能性が考えられる。地域の保険担当部門へのナビゲーターの広報活動と活用の提案を戦略的

に検討する必要がある。「がんナビ」の質（人間）の保障を行政に行う担当者が必要（地域責任者）と考えられる。



- Katabuchi H.), Springer, 9-22, 2017
6. 片瀧秀隆, 杉山徹, 三上芳喜, 榎本隆之. 子宮頸癌取扱い規約 病理編 第4版 日本産科婦人科学会・日本病理学会 金原出版 2017
  7. 片瀧秀隆, 杉山徹, 安田政実, 榎本隆之. 子宮体癌取扱い規約 病理編 第4版 日本産科婦人科学会・日本病理学会 金原出版 2017
  8. 三上幹男, 永瀬 智, 宇田川康博, 八重樫伸生, 片瀧秀隆 (編集). 子宮頸癌治療ガイドライン 2017年版 日本婦人科腫瘍学会 金原出版 2017
  9. 片瀧秀隆, 森谷卓也 (編集). 一冊でわかる婦人科腫瘍・疾患 周産期疾患, 生殖・内分泌疾患, 乳癌を含む 文光堂 2017
  10. Katabuchi H. (ed.). Frontiers in Ovarian Cancer Science. Comprehensive Gynecology and Obstetrics (Series eds., Konishi I., Katabuchi H.), Springer 2017
  11. 片瀧秀隆. 産婦人科医の立場で行うティーンエイジからのがん教育. 熊本県母性衛生学会雑誌 20: 21-26, 2017
  12. 佐々木治一郎, 相羽恵介, 矢野篤次郎, 富田尚裕, 片瀧秀隆, 西山正彦, 北川雄光. 日本癌治療学会認定 がん医療ネットワークナビゲーター. がん患者と対症療法 27: 48-49, 2018
  13. 大竹秀幸, 宮原陽, 高石清美, 田代浩徳, 福間啓造, 田中信幸, 迫田芳生, 八木剛志, 片瀧秀隆. 熊本県における子宮頸がん検診受診率向上への取り組みとその成果. 九州連合産科婦人科学会雑誌 68: 33-38, 2017
  14. Yamagami W, Nagase S, Takahashi F, Inou K, Hachisuga T, Aoki D, Katabuchi H. Clinical statistics of gynecologic cancers in Japan. Journal of Gynecologic Oncology 2017 <https://doi.org/10.3802/jgo.2017.28.e32>
  15. Shigeta S, Nagase S, Mikami M, Ikeda M, Shida M, Sakaguchi I, Ushioda N, Takahashi F, Yamagami W, Yaegashi N., Udagawa Y, Katabuchi H. Assessing the effect of guideline introduction on clinical practice and outcome in patients with endometrial cancer in Japan: A project of the Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO). guideline evaluation committee. Journal of Gynecologic Oncology <https://doi.org/10.3802/jgo.2017.28.e76>
  16. Saito T, Takahashi F, Katabuchi H. The 2016 Committee on Gynecologic Oncology of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology Annual report of the Committee on Gynecologic Oncology, the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Patient Annual Report for 2014 and Treatment Annual Report for 2009. Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 43: 1667-1677, 2017
  17. Tayama S, Motohara T, Fujimoto K, D.Narantuya, Sakaguchi I, Tashiro H, Saya H, Nagano O, Katabuchi H. The

- impact of EpCAM on response to chemotherapy and clinical outcomes in patients with epithelial ovarian cancer. *Oncotarget* 8: 44312-44325, 2017
18. Matsuo K, Shimada M, Yokota H, Satoh T, Katabuchi H, Kodama S, Sasaki H, Matsumura N, Mikami M, Sugiyama T. Effectiveness of adjuvant systemic chemotherapy for stage IB cervical cancer with intermediate risk factor. *Oncotarget* 8: 1068666-106875, 2017
  19. 宮原陽, 片瀨秀隆. 卵巣癌・腹膜癌(卵巣がん診療ガイドライン 2015年版 (2015)) 日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2018-2019. 門脇孝、小室一成、宮地良樹監修. メジカルビュー社 908-912, 2018
  20. 本原剛志, 片瀨秀隆. 腫瘍免疫 実践よくわかる 臨床生殖免疫学入柴原浩章編集. 中外出版社 23-32, 2018
  21. 宮原陽, 宇田川康博, 片瀨秀隆. 癌治療ガイドラインの進歩 婦人科がん(第2版) - 最新の研究動向 - 小西郁生編集. 日本臨床 70-75, 2018
  22. Motohara T, Katabuchi H. Emerging role of CD44 variant 6 in driving the metastatic journey of ovarian cancer stem cells. (ed., Katabuchi H, Ohba T., Motohara T.) *Cell Biology of the Ovary*, Springer, 73-88, 2018
  23. Tashiro H, Katabuchi H. Molecular Targeted Therapy for Epithelial Ovarian Cancer. (ed., Katabuchi H, Ohba T., Motohara T.) *Cell Biology of the Ovary*, Springer, 153-166, 2018
  24. 三上幹男、永瀬智、宇田川康博、八重樫伸生、片瀨秀隆(編集). 子宮体がん治療ガイドライン 2018年版 日本婦人科腫瘍学会 金原出版 2018
  25. Katabuchi H, Ohba T, Motohara T. (ed.) *Cell Biology of the Ovary* Springer 2018
  26. 佐々木治一郎, 相羽恵介, 矢野篤次郎, 富田尚裕, 片瀨秀隆, 西山正彦, 北川雄光. 日本癌治療学会認定 がん医療ネットワークナビゲーター. がん患者と対症療法 27: 48-49, 2018
  27. 宮原陽, 片瀨秀隆. 卵巣がん診療ガイドライン. 腫瘍内科 21: 448-453, 2018
  28. 相羽恵介, 片瀨秀隆. 学会の学術活動と社会的連携活動. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 36:118-123, 2018
  29. 杉山徹, 片瀨秀隆, 青木大輔. 婦人科癌取り扱い規約の変更の経緯と要点. 日本婦人科腫瘍学会雑誌. 36:181-185, 2018
  30. 永瀬智, 山上亘, 吉野潔, 徳永英樹, 齋藤俊章, 片瀨秀隆. 婦人科悪性腫瘍の登録事業と公共性. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 36:186-192, 2018
  31. 田代浩徳, 片瀨秀隆, 「卵巣腫瘍取り扱い規約」から「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取り扱い規約」- 背景と意義. 癌の臨床 64: 195-202, 2018
  32. 境健爾, 安達美樹, 方尾志津, 山崎浩, 緒方美穂, 廣松矩子, 村上誠子, 中城加南子, 後藤慶次, 藤本真之介, 米田宏之, 片瀨秀隆. 熊本地震におけるが

- ん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの状況と課題 癌と化学療法 45: 1311-1317, 2018
33. 境健爾, 安達美樹, 方尾志津, 山崎 浩, 緒方美穂, 廣松矩子, 村上誠子, 中城加南子, 後藤慶次, 藤本真之介, 米田宏之, 片淵秀隆. 熊本地震におけるがん診療連携拠点病院のがん治療の状況と課題, 癌と化学療法 45:1319-1325, 2018
34. Erdenebaatar C, Yamaguchi M, Saito F., Monsur M, Honda R, Tashiro H, Ohba T, Katabuchi H. Administration of cabergoline contribute to preventing fertility in young hyperprolactinemic patients with endometrial cancer at treated with medroxyprogesterone acetate. International Journal of Gynecologic Cancer 28:539-544, 2018
35. Saito T, Tabata T, Ikushima H, Yanai H, Tashiro H, Niikura H., Minaguchi T, Muramatsu T, Baba T., Yamagami W, Ariyoshi K, Ushijima K, Mikami M, Nagase S, Kaneuchi M, Yaegashi N, Udagawa Y, Katabuchi H. Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2015 for the treatment of vulvar cancer and vaginal cancer. International Journal of Clinical Oncology 23:201-234, 2018
36. Imamura Y. Tashiro H, Tsend-Ayush G, Haruta M, Dashdemberel N, Tsuboki J, Takaishi K, Ohba T, Katabuchi H, Senju S. Novel therapeutic strategies for advance ovarian cancer with iPS cell-derived myelomonocytic cells producing interferon beta. Cancer Science 109: 3403-3410, 2018
37. Yoneda M, Imamura R, Nitta H, Taniguchi K, Saito F, Kikuchi K, Ogi H, Tanaka T, Katabuchi H, Nakayama H, Imamura T. Enhancement of cancer invasion and growth via the C5a-C5a receptor system: Implications for cancer promotion by autoimmune diseases and association with cervical cancer invasion. Oncology Letters 17: 913-920, 2019
38. Mikami M, Shida M, Shibata T, Katabuchi H, Kigawa J, Aoki D, Yaegashi N. Impact of institutional accreditation by the Japan Society of Gynecologic Oncology on the treatment and survival of women with cervical cancer. Journal of Gynecologic Oncology 2018 (online)
39. Erdenebaatar C, Yamaguchi M, Monsur M, Saito F, Honda R, Tashiro H, Ohba T, Katabuchi H. Serum prolactin contributes to enhancing prolactin receptor and pJAK2 in type I endometrial cancer cells in young women without insulin resistance. International Journal of Gynecologic Pathology 2018 (online)
40. 大竹秀幸, 高石清美, 宮原 陽, 田代浩徳, 田中信幸, 福岡啓造, 宮村伸一,



- 片瀧秀隆. 平成28年熊本地震による子宮がん検診事業への影響に関する実態調査：震災後1年目の報告. 熊本産科婦人科学会雑誌 63: 39-45, 2019
41. 齋藤文誉, 片瀧秀隆. 子宮体がんの標準治療 ライフライン 21 がんの先端医療 33: 26-29, 2019
42. 境健爾, 岸裕人, 大竹秀幸, 濱口裕光, 吉田稔, 後藤慶次, 樋田直美, 内山恵美, 中川実優, 宮本伸枝, 江原美香, 安達美樹, 宇宿功市郎, 片瀧秀隆. 熊本県におけるがん診療連携活動の現状と課題 癌と化学療法 46: 1151-1157, 2019
43. 片瀧秀隆, 楫靖 (編集). JSAWI 発 一冊でわかる婦人科腫瘍の画像診断 モダリティ・解剖・病理・診断・治療フォローアップ・ピットフォール 文光堂 2019
44. 小寺千聡, 坂口勲, 大場隆, 片瀧秀隆. 災害時小児・周産期の活動の実際と問題点 平成 28 年 (2016 年) 熊本地震産科. 周産期医学 49: 1241-1245, 2019
45. 青木大輔, 片瀧秀隆, 三上幹男. 子宮頸癌. 領域横断的がん取扱い規約 第1版 235-251, 日本癌治療学会, 日本病理学会編 2019
46. 青木大輔, 片瀧秀隆, 三上幹男. 子宮体癌. 領域横断的がん取扱い規約 第1版 253-263, 日本癌治療学会, 日本病理学会編 2019
47. 青木大輔, 片瀧秀隆, 三上幹男. 卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌. 領域横断的がん取扱い規約 第1版 265-281, 日本癌治療学会, 日本病理学会編 2019
48. Watanabe T, Mikami M, Katabuchi H, Kato S, Kaneuchi M, Takahashi M, Nakai H., Nagase S, Niikura H, Mandai M, Hirashima Y, Yanai H, Yamagami W, Kamitani S, Higashi T. Quality indicators for cervical cancer care in Japan . Journal of Gynecologic Oncology 29 (6): e83, 2019
49. Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y. Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D. Japan Society of Gynecologic Oncology Guidelines 2017 for the Treatment of Uterine Cervical Cancer. Journal of Clinical Oncology 24: 1-19, 2019